

決算

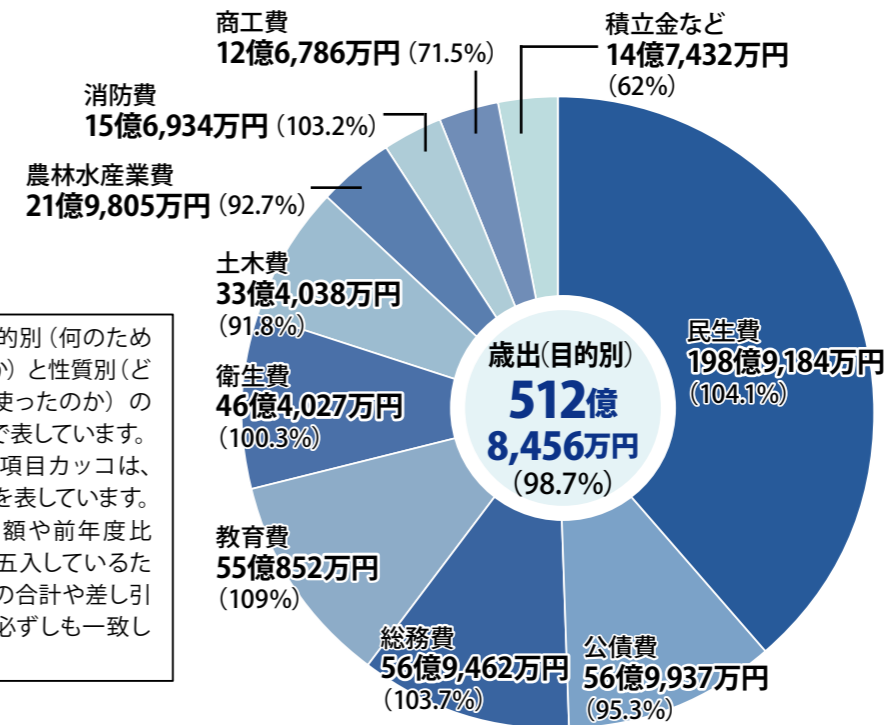
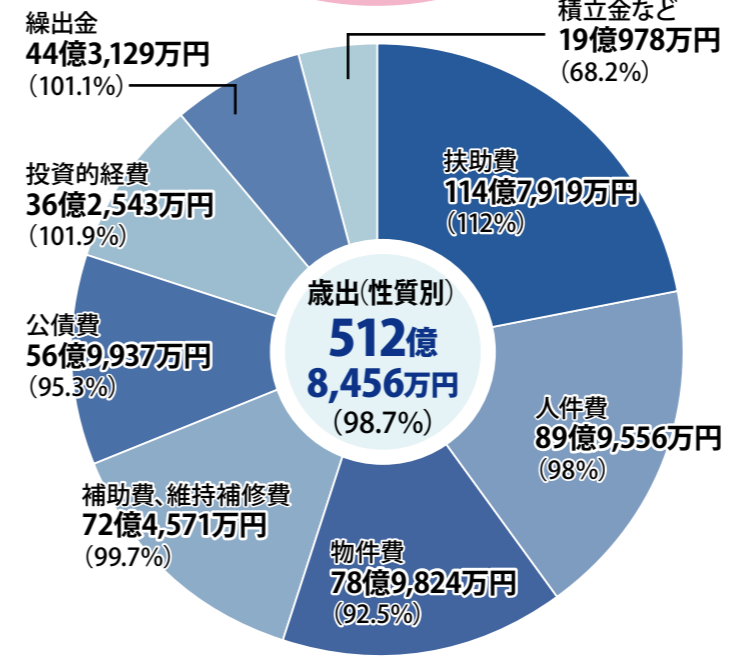
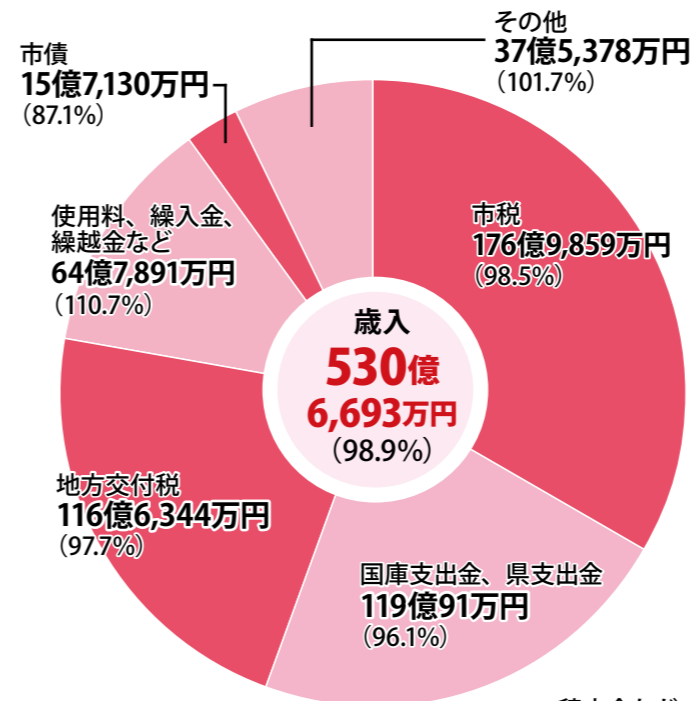
概要

令和5年度の決算額は、歳入、歳出それぞれ円グラフのとおりです。歳入歳出差引額は、17億8237万円。このうち翌年度へ繰り越すべき財源2億3891万円を差し引いた実質収支額は、15億4346万円を黒字決算となりました。

令和5年度の決算額は、個人市民税と固定資産税は減少しましたが、個人市民税と固定資産税はともに増加しました。また、歳出では、住民税非課税世帯等臨時特別給付金や障害者総合支援介護給付訓練等給付費の増のほか、文化振興施設や教育施設の大規模改修を行ったことにより、扶助費や投資的経費が増加しました。

令和5年度一般会計・特別会計・企業会計の決算が市議会9月定例会で承認されましたので、その決算状況と主な事業についてお知らせします。令和5年度は、エネルギーや食糧などの物価高騰に対応するために必要な施策を実施し、市民生活や地域経済の安定に向けた支援に継続して取り組みました。

また、第2次東近江市総合計画後期基本計画が2年目となり、「うるおいにぎわいのまち」の実現に向け、一つ一つの事業の有用性を見極め、本市の多様な豊かな地域資源を最大限にいかしつつ、誰もが安心して健康で豊かな暮らしを実感できるまちを目指して取り組みました。



※歳出は、目的別(何のために使ったのか)と性質別(どんなことに使ったのか)の2つの区分で表しています。
※円グラフの項目カッコは、前年度比率を表しています。
※記載した金額や前年度比率は、四捨五入しているため、各項目の合計や差し引きなどは、必ずしも一致しません。

令和5年度の主な事業



布引プールの大規模改修を行いました。



令和4年5月から2年間にわたり「近江の聖徳太子魅力発信事業」が実施されました。



さくらんぼ幼稚園の施設整備を行いました。



駅前土地区画1号公園の一部に人工芝やベンチを設置するとともに、イベントスペースを整備しました。

東近江市の未来に向けて

施策の推進と 財政の健全性の両立

令和6年度の日本経済は、コロナ禍を乗り越えて社会経済活動の正常化が進んでいます。一方で、ロシアのウクライナ侵攻など不安定な国際情勢によるエネルギーおよび食料価格の高騰や急激な物価上昇に対して賃金上昇が追いついていない状況など、市民生活に大きな影響を与えています。

このような中で本市では、物価高騰などによる市民生活や地域経済への影響、課題を的確に捉え、必要な時期に必要な対策を迅速に講じています。

また、本市が有する地理的優位性と豊かで多様性のある地域資源を最大限にいかしつつ、市民が誇りを持ち安全で質の高い暮らしを享受できるよう、強く豊かな東近江市の創生に取り組み、引き続き「施策の推進」と「財政の健全性の維持」の両立を図ります。

問財政課

TEL 050-5801-5602
FAX 0748-24-0752

会計別決算額

会計		歳入	歳出
一般会計	まちづくりや福祉、教育など、市の一般的な事業を行う会計	530億6,693万円	512億8,456万円
特別会計	国民健康保険(事業勘定)	106億159万円	105億6,375万円
	国民健康保険(施設勘定)	1億8,538万円	1億7,407万円
	後期高齢者医療	14億2,319万円	13億8,402万円
	介護保険	87億9,203万円	86億548万円
	農業集落排水事業	10億5,157万円	10億658万円
企業会計	公設地方卸売市場	4,166万円	4,116万円
	水道事業(収益的収支)	22億8,851万円	19億5,249万円
	下水道事業(収益的収支)	28億4,084万円	27億7,131万円
	病院事業(収益的収支)	1億4,837万円	1億3,994万円